

お三の宮例大祭に参加 神輿で「ワッショイ！」 南区の小俣組



小俣組(横浜市南区)は、4年ぶりと
なるお祭りに皆さん
の力で盛り上げてほしい」との依頼があり、小俣社長は「地域の社会・文化への貢献活動の一環として少しでもお役に立てれば」と快く引き受け、実現した。当日は天候にも恵まれ、大勢の観客が見守る中、実践した。



地元神社例大祭に参加 小俣社長も神輿担ぎ

小俣組

小俣組(横浜市南区、小俣順一社長)は17日、地元神社の例大祭に社員約20人が参加して、祭りを盛り上げた。同社が力を入れる地域貢献の一環。この日は小俣社長も法被姿で参加し、神輿(みこし)の担ぎ手に加わって町内を練り歩

いた写真。

15、17日に催されたお三の宮日枝神社(南区山王町5の32)例大祭の最終日、17日の町内神輿連合渡御で同社のある新川町の神輿を担いだ。新川町の町内会長からコロナ禍で4年ぶりの開催となる例大祭を盛り上げてほしいとの依頼を受け、地域の社会・文化への貢献として快く引き受けた。

小俣社長は「少しでも地元を盛

り上げる役に立てればうれしい。これからも積極的に社会貢献活動に取り組みたい」と話し、社員らと汗を流した。

同社は今年御鎮座350年を迎えた古社。横浜の礎といわれる「吉田新田」の鎮守として1673(寛文13)年、江戸城守護神の山王日枝神社から分霊を勧進し創建。関外(吉田新田)の総鎮守、横浜開拓の守護神と呼ばれてきた。

日枝神社例大祭の 連合渡御に参加

小俣組

小俣組(横浜市南区、小俣順一社長)は17日、お三の宮日枝神社例大祭の神輿が連なる連合渡御(約25基)に参加した。小俣社長をはじめ社員約20人が神輿をかつぎ汗を流した。



街中を神輿が進む(中央が小俣社長)

各町内神輿の連合渡御は4年ぶり。新川町町内会長から「お神輿を担いでお祭りを盛り上げてほしい」と依頼を受け参加を決めた。小俣社長は、地域の社会・文化への貢献活動について、今後も「少しでもお役に立てれば」というスタンスで臨んでいくという。